

總社昌楽寺廻窟道遺跡No.2

宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2020.7

株式会社エリアトラスト
前橋市教育委員会
株式会社シン技術コンサル



調査区全景 完掘 西から

卷頭図版 2



H-5号住居跡 東壁断面 西から



調査区中央部 住居跡集中箇所 東から

例　言

- 1 本書は、宅地造成工事に伴い実施された「総社昌楽寺廻廊道遺跡 No.2」（前橋市遺跡コード：1A251）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡の所在は、群馬県前橋市総社町総社 2874 番 1 ほかである。
- 3 発掘調査は、令和 2 年 4 月 3 日から令和 2 年 5 月 1 日まで実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業は、前橋市教育委員会の指導・助言及び監督のもと、開発事業者である株式会社エリアトラストから委託された株式会社シン技術コンサルが実施した。
- 5 調査体制は以下のとおりである。

【前橋市教育委員会】 神宮 聰・並木史一

【調査担当】 小林一弘・菊池康一郎（株式会社シン技術コンサル）

【測量担当】 原田一静・関上高士（株式会社シン技術コンサル）

- 6 本書の編集は小林が行い、執筆は第 1 章を並木、これ以外を小林が行った。
- 7 本書に掲載された遺構図版作成は、原田・逸見智恵子・馬淵恵美子（株式会社シン技術コンサル）が行った。
- 8 出土遺物の整理作業及び観察表作成は、小林朋恵（株式会社シン技術コンサル）が担当した。
- 9 遺構写真は菊池・小林が撮影し、本書に使用する遺構写真を小林が選出した後、坂本勝一（株式会社シン技術コンサル）がデジタル処理した。
- 10 本書のデジタル編集は、馬淵・逸見が行った。
- 11 本調査における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会で保管している。
- 12 発掘調査の実施、および報告書刊行に至るまで、下記の機関の御指導・御協力を賜りました。記して感謝の意を表します。（敬称略）

株式会社エリアトラスト

- 13 発掘調査・整理作業参加者については次のとおりである。

【発掘調査】 秋山十美日 池谷厚子 石崎邦夫 柏原高夫 田中 進 萩原陽子 星野芳彦 山中裕介

和田 熊

【整理作業】 新井かおり 池田敏雄 伊藤澄代 木村真弓 佐藤久美子 鈴木幸見 鈴木澄江

田島直美 高中 朋

凡 例

- 本書掲載の第1図には前橋市発行1/2,500都市計画図を、第2図には国土地理院発行1/25,000地形図『前橋』・『渋川』をそれぞれ使用した。
- 遺構平面図に示した方位は座標北であり、水準線は標高を示す。座標については、世界測地系に基づく平面直角座標第IX系を使用した。
- 土層及び遺物の色調は、『標準土色帖』(農林水産技術会議事務局・(財)日本色彩研究所色票監修39版)に拠るが、担当者の主観による識別である。
- 本書における遺構種別の略号を以下に記す。

H—竪穴住居跡 D—土坑 P—ピット I—井戸跡 W—溝跡 X—性格不明遺構

- 本文・図面に示す火山灰名を以下に記す。

As-B=浅間Bテフラ、天仁元年(1108年) As-C=浅間C軽石、3世紀後葉~4世紀前半

Hr-FA=榛名・二ツ岳渋川テフラ、5世紀末~6世紀初頭

- 遺物番号は、遺構図・遺物実測図・観察表・写真図版とともに統一してある。

- 遺物実測図・写真的縮尺は1/3とした。

- 遺物実測図の断面において使用しているトーンの凡例は以下のとおりである。

 遺元焰焼成  灰釉陶器

- 遺物観察表の含有物については以下の略称を用いた。

石:石英 長:長石 角:角閃石 雲:雲母 凝:凝灰岩 チ:チャート 片:片岩

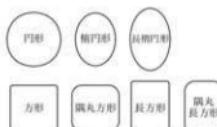
白:白色粒子 黒:黑色粒子 橙:橙色粒子

- 遺物観察表の出土位置項目のNoは、現地計測の取り上げNoである。

- 土坑、ピットの平面・断面形状の分類を以下に示す。

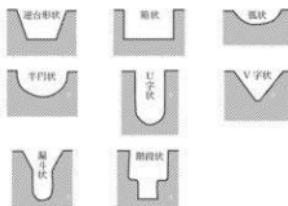
平面形状

円形	円形を基調とし、長軸が短軸の1.2倍未満のもの。
楕円形	円形を基調とし、長軸が短軸の1.2倍以上1.5倍未満のもの。
長楕円形	円形を基調とし、長軸が短軸の1.5倍以上のもの。
方形	方形を基調とし、長軸が短軸の1.2倍未満のもの。
調丸方形	方形を基調とし、隅が丸く長軸が短軸の1.2倍未満のもの。
長方形	方形を基調とし、長軸が短軸の1.2倍以上のもの。
調丸長方形	方形を基調とし、隅が丸く長軸が短軸の1.2倍以上のもの。



断面形状

逆台形状	底部に平坦面を持ち、緩やか~急斜面に立ち上がるものの。
箱状	底部に平坦面を持ち、ほぼ垂直に立ち上がるものの。
弧状	底部に平坦面を持たない弧状で、緩やかに立ち上がるものの。
半円状	底部に平坦面を持たない楕状で、急斜面に立ち上がるものの。
U字状	底面の長幅よりも深さの割合が大きめ、ほぼ垂直に立ち上がるものの。
V字状	点的な底面を持ち、急斜面に立ち上がるものの。
脛斗状	下部がU字状、上部がV字状の二段構造からなるもの。
斬段状	階段状の立ち上がりを持つもの。広い中段(チラス)を持つものも含める。



目 次

巻頭図版 1・2

例言

凡例

目次

第Ⅰ章 調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	2
第1節 遺跡の位置	2
第2節 歴史的環境	2
第Ⅲ章 調査方針と経過	4
第Ⅳ章 基本層序	4
第Ⅴ章 遺構と遺物	6
第1節 坂穴住居跡	6
第2節 その他の遺構	6
(1) 土坑・ビット	6
(2) 井戸跡	6
(3) 溝跡	6
(4) 性格不明遺構	6
第VI章 まとめ	20
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

第1図 調査区位置図	1
第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡	3
第3図 調査区全体図・基本土層図	5
第4図 H-1号住居跡、H-2号住居跡	10
第5図 H-3A号住居跡	11
第6図 H-3B号住居跡、H-4号住居跡	12
第7図 H-5号住居跡、H-6号住居跡	13
第8図 H-7号住居跡、H-8号住居跡	14
第9図 D-1～3・8・11号土坑、I-1号井戸跡	15
第10図 W-2号溝跡、X-2～4号性格不明遺構	16
第11図 H-1、H-2号住居跡出土遺物、H-3号住居跡出土遺物(1)	17
第12図 H-3号住居跡出土遺物(2)、H-3B、H-4号住居跡出土遺物、H-5号住居跡出土遺物(1)…	18
第13図 H-5号住居跡出土遺物(2)、H-6～H-8号住居跡出土遺物、 D-4号土坑、P-7号ビット、X-3号性格不明遺構出土遺物	19

表目次

第1表 周辺の遺跡一覧表	3	第6表 溝跡 (W) 観察表	8
第2表 竪穴住居跡 (H) 観察表	7	第7表 性格不明遺構 (X) 観察表	8
第3表 土坑 (D) 観察表	7	第8表 遺物観察表 (1)	8
第4表 ピット (P) 観察表	7	第9表 遺物観察表 (2)	9
第5表 井戸跡 (I) 観察表	8		

写真図版目次

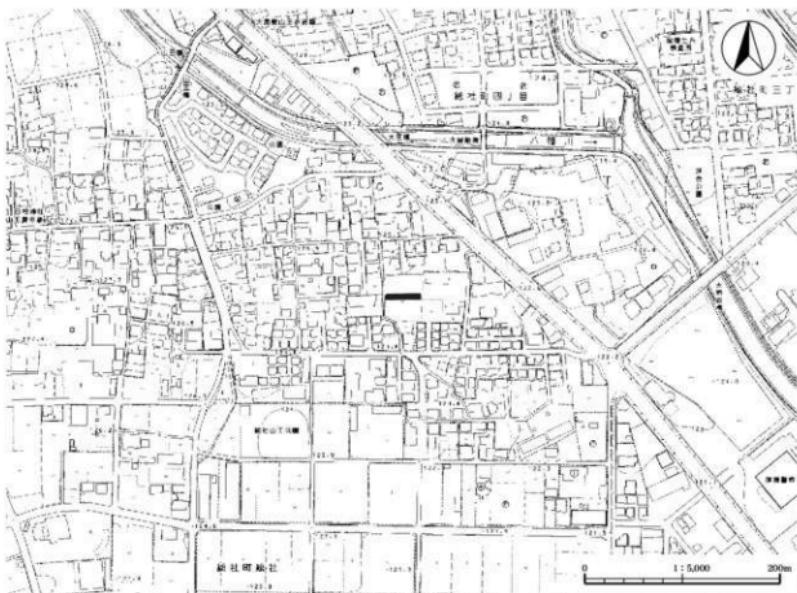
巻頭図版 1 調査区全景 完掘 西から	PL.3 D-11号土坑 南から
巻頭図版 2 H-5号住居跡 東壁断面 西から	I-1号井戸跡 南から
調査区中央部 住居跡集中箇所 東から	W-1号溝跡 北から
PL.1 H-1号住居跡 西から	W-2号溝跡 南から
H-1号住居跡カマド 西から	X-1号性格不明遺構 南から
H-2号住居跡 西から	X-2号性格不明遺構断面 西から
H-2号住居跡カマド 西から	X-3号性格不明遺構 北から
H-3A号住居跡 西から	X-4号性格不明遺構 南西から
H-3A号住居跡カマド 西から	PL.4 H-1、H-2号住居跡出土遺物、 H-3号住居跡出土遺物 (1)
H-3A・B号住居跡掘り方 西から	PL.5 H-3号住居跡出土遺物 (2)、H-3B、H-4号 住居跡出土遺物、H-5号住居跡出土遺物 (1)
H-4号住居跡 北から	PL.6 H-5号住居跡出土遺物 (2)、H-6～H-8号 住居跡出土遺物、D-4号土坑、P-7号ピット、 X-3号性格不明遺構出土遺物
PL.2 H-5号住居跡 南から	
H-6号住居跡 北から	
H-7号住居跡 西から	
H-7号住居跡カマド 西から	
H-8号住居跡 南から	
D-1号土坑 南から	
D-3号土坑 南から	
D-8号土坑 北から	

第Ⅰ章 調査に至る経緯

令和元年10月9日、総社町總社の宅地造成を目的とした埋蔵文化財の取扱いについて前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）へ照会があり、当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「前橋市0118遺跡」内であり、文化財保護法第93条第1項の届出を提出する必要がある旨を、開発事業者である株式会社エリートラスト（以下「開発者」という。）の代理人あてに回答する。工事計画が具体化した同年12月12日、開発者より文化財保護法第93条第1項の届出及び、試掘確認調査依頼が提出された。これを受け、市教委で令和2年1月9日に確認調査を実施した結果、竪穴住居跡等が検出された。工事計画の変更による遺跡の現状保存に向けて協議を進めたが、計画変更が困難であることから、工事により現状保存が困難な道路新設部分について、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意に至った。

令和2年1月27日付で開発者から市教委へ埋蔵文化財発掘調査依頼が提出された。市教委では他の発掘調査を実施中のため、市教委直営による調査実施が困難であると判断し、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、市教委の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、民間調査組織による発掘調査実施とした。同年3月23日付けで開発者と民間調査組織である株式会社シン技術コンサルの間で業務委託の契約が締結されるとともに、両者に市教委を加えた三者で協定を締結し、発掘調査に着手した。

なお、遺跡名称「総社昌楽寺廻廊道遺跡No.2」（遺跡コード：1A251）の「総社」は地区名、「昌楽寺廻廊道」は旧小字名を採用した。「No.2」は、過年度に実施した発掘調査と区別するために付したものである。



第1図 調査区位置図

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置

本遺跡は、前橋市南西部に広がる前橋台地上に立地する。前橋台地は井野川と広瀬川（旧利根川）に挟まれた地域の、赤城山と榛名山の両山麓の間から流下した利根川が形成した扇状地性台地である。前橋台地の下部には厚さ100mほどの前橋砂礫層が堆積しており、この上部には、2.4万年前頃の浅間山の噴火に伴う、前橋泥流が15m前後の厚さで堆積する。さらに上部には前橋泥炭層などが堆積し、これらの上位には、粘土・シルト・細粒砂の互層からなる「総社砂層」が堆積しており、本遺跡の基盤層となっている。また、前橋台地の西側では、1.6万年前頃に榛名山の山体崩壊の「陣場岩屑なだれ」が発生し、榛名山南東麓に相馬ヶ原扇状地が形成された。

本遺跡地は、前橋台地と相馬ヶ原扇状地の境界域の前橋台地上に位置し、相馬ヶ原扇状地から南東流する複数の河川のうち、八幡川と牛池川に挟まれている。八幡川の南西側には平行する自然堤防が形成されており、この上の標高約124～125mの地点が今回の調査地である。調査区の現況は畑地で、周囲は宅地となっている。

第2節 歴史的環境

本遺跡周辺の總社・元總社地区は古代上野国の中心地であり、特に白鳳期・律令期には寺院と国府が置かれ、上野国の中枢として機能していた。本遺跡の北東には總社古墳群（B）があり、西北西350mには山王庵寺跡（I）、西南西1460mには国分僧寺跡（J）、南西950mには国分尼寺跡（K）、南1000m付近には上野国府推定城（L）がある。以下、各時代の遺跡分布について概観する。

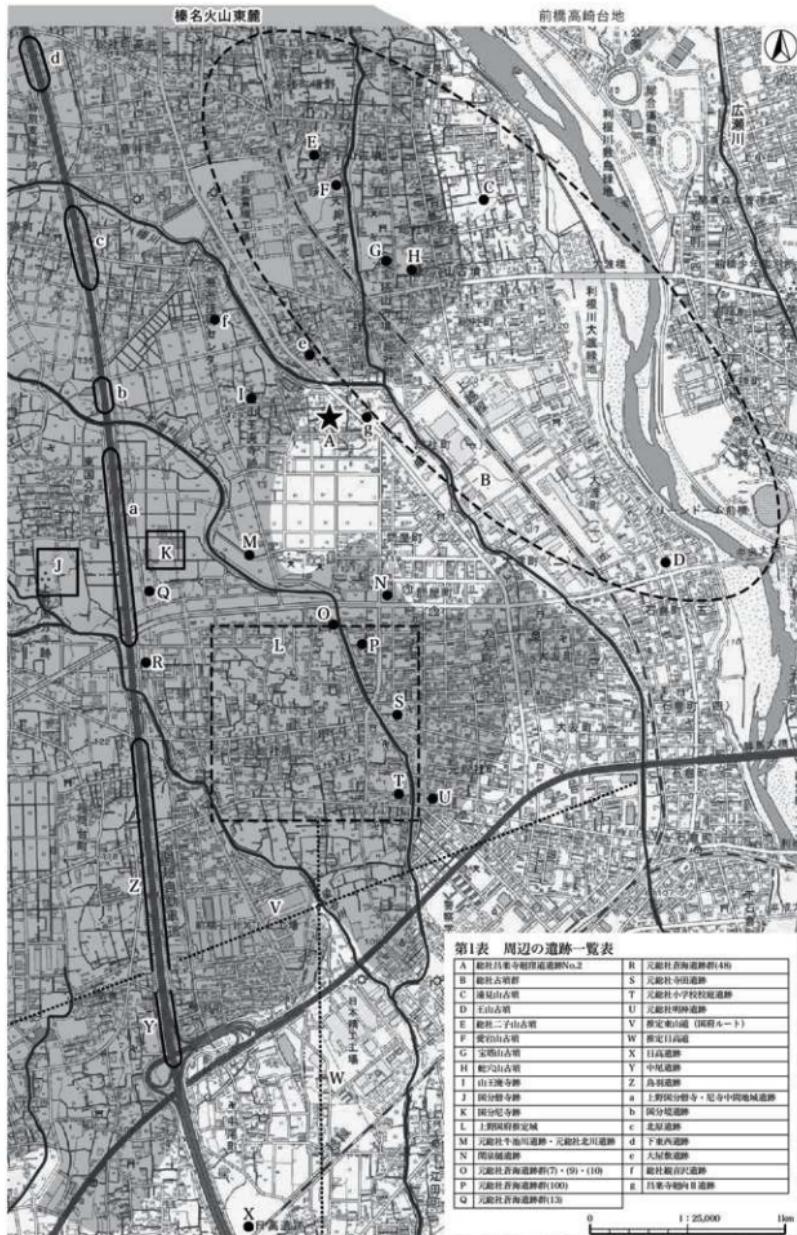
縄文時代は、元總社蒼海遺跡群（13）（Q）・（48）（R）などで前期後葉の集落跡が、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡（a）などでは中期を主体とする集落跡がそれぞれ調査されている。この他に、元總社蒼海遺跡群（7）・（9）・（10）（O）では晩期前半の住居跡が確認されている。

弥生時代は、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡で後期の集落跡・方形周溝墓が、下東西遺跡（d）で後期の住居跡が検出された他、日高遺跡（X）では水田跡・集落跡・方形周溝墓などが調査されている。

古墳時代前期以降には低地の水田開発が始まり、元總社牛池川遺跡・元總社北川遺跡（M）では堰を伴う用水路や、生産構造が検出されている。墳墓については、元總社蒼海遺跡群（100）（P）やその周辺で方形周溝墓が確認されている他、總社古墳群では5世紀末～6世紀末にかけて遠見山古墳（C）、王山古墳（D）、總社二子山古墳（E）などの前方後円墳5基が築かれた。続いて7世紀代には家形石棺を伴う巨大な方墳の愛宕山古墳（F）、宝塔山古墳（G）、蛇穴山古墳（H）が築かれており、その石材加工などの技術の高さから、中央政権との結び付きや同時期に建立された山王庵寺との繋がりが窺える。この時期の集落跡は、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡や鳥羽遺跡（Z）などで前期～後期のものが、大屋敷遺跡（e）では後期のものが確認されている。

奈良・平安時代には、上野国府・国分僧寺・国分尼寺が運営されるとともに、権力中枢機能が明瞭になってくる。国府については元總社寺田遺跡（S）・元總社小学校校庭遺跡（T）などで国府に関連すると考えられる遺構・遺物が検出された他、元總社蒼海遺跡群（7）・（9）・（10）、閑泉橋遺跡（N）、元總社明神遺跡（U）の調査結果により国府域の北東外郭線が想定された。また、国府推定城南方には、N-64°-E方向の東山道（国府ルート）（V）や、日高道（W）の存在が想定されている。集落跡については、この時期に増加がみられ、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡、鳥羽遺跡、国分境遺跡（b）、中尾遺跡（Y）、元總社蒼海遺跡群などで大規模な集落が検出されている他、本遺跡近辺の總社觀音沢遺跡（f）、昌楽寺廻向II遺跡（g）でも竪穴住居跡が検出されている。

中世には、上野国守護代の長尾氏により国府跡地に蒼海城が築かれている。



第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡

第III章 調査方針と経過

総社昌来寺廻廊遺跡のうち、宅地造成工事に伴い 193m²が調査対象地となり、令和2年4月3日から5月1日まで発掘調査を実施した。

調査は 0.25m²のバックホウを使用して表土を掘削した後、ジョレン・移植ゴテなどを用いて遺構確認・掘削を行った。遺構の重複が多く、確認面での精査だけでは検出が困難な箇所もあったため、サブトレント等の断面での確認を活用した。

写真記録は、デジタル一眼レフカメラの他に 35mmモノクロネガフィルム・同カラーリバーサルフィルムの2種類を使用して行った。遺構の作図作業は、トータルステーション・電子平板を用いた機械測量で行った。

グリッドは、世界測地系に基づく平面直角座標第IX系の座標軸を用い、X = 44,734.0m, Y = -71,506.0m を基点として 4m 方眼を組んで設定されている（第3図）。グリッドの基点は南東角であり、Xは南から北へアルファベットが、Yは東から西へアラビア数字が序列されている。

調査の経過は以下に記す。

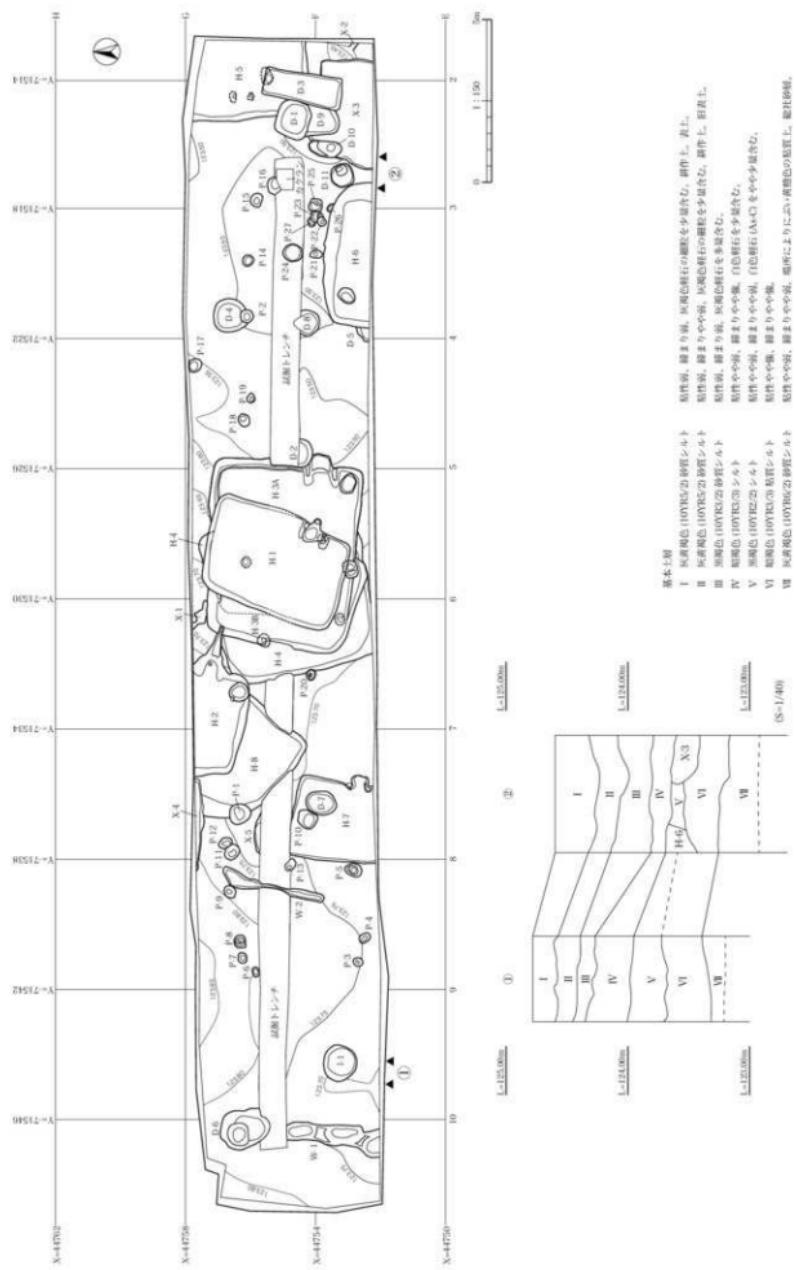
4月 3 日	器材搬入、仮設便所設置、安全柵設置。
4月 6 日	重機搬入、表土掘削開始。
4月 8 日	表土掘削終了。遺構検出。遺構調査開始。
4月 27 日	遺構調査終了。
4月 28 日	調査区全景写真撮影。前橋市による終了確認。器材搬出。
4月 30 日	重機搬入、埋め戻し開始。
5月 1 日	埋め戻し完了。重機搬出。仮設便所・安全柵撤去。現場引き渡し。

第IV章 基本層序

本遺跡では I ~ VII 層の基本土層を確認した。基本層序の記録は、調査区南壁の東西 2箇所で行った。

I 層は表土で現代の耕作土。II 層も耕作土で、近世・近代のものと考えられる。III 層は黒褐色土層。I ~ III 層には As-B と考えられる灰褐色軽石が混じり、特に III 層中に多く含まれる。IV 層は暗褐色土層であり、V 層は As-C と考えられる白色軽石を含む黒褐色土層で、遺構確認面はこの上面である。今回検出した遺構は V 層中に構築されているが、調査区壁面の観察では IV 層中に掘り込みは見られなかった。このことから、遺構の埋没後に行われた耕作等によって、IV 層が形成されたと考えられる。VI 層は暗褐色土層。VII 層は灰黄褐色土を主体とする土層で総社砂層と考えられる。

調査区内の各土層の堆積状況に大きな変化はないが、III 層は東部で、IV・V 層は西部でそれぞれ厚くなる傾向がみられた。



第3図 調査区全体図・基本土層図

第V章 遺構と遺物

第1節 竪穴住居跡

竪穴住居跡は、9軒 (H-1・2・3A・3B・4～8) が検出された。調査区内の分布は、東部に2軒検出した他、中央部に7軒が集中しており、このうち6軒 (H-1・2・3A・3B・4・8) が重複している。調査区が狭小な為、遺構全体が検出できたのは4軒ほどである。平面形状は、全て方形を基調とするが、H-6・8については壁面の崩壊がみられる。規模はH-4の長軸が約5.03mと最も大きく、H-1・3A・3Bは4.4～4.78mほどである。カマドは、H-1・2・3A・7で検出され、いずれも東壁に構築されている。H-3A・7のカマド袖には砂岩の加工蹠が使用されており、H-2では同様の加工蹠を支脚として設置していた。貯蔵穴はH-2・3A・3Bでカマドの南側に確認できた。柱穴は、H-4で4基が検出され、同時期の遺構と考えられるH-5でも1基を検出した。H-5では入口施設と考えられる柱穴も検出された。

遺物の出土量は、H-5で特に多くH-4・6・7では比較的少なかった。出土遺物から、各住居の時期はおよそ2時期に分けられ、平安時代（9～10世紀）のものが7軒 (H-1・2・3A・3B・6～8)、古墳時代（7世紀）のものが2軒 (H-4・5) と考えられる。

なお、H-3AとH-3Bについては、床面検出途中に重複していることが判明したため、重複関係は掘り方の断面で記録したのみである。出土遺物についても、H-3としたものは両遺構の区別がつけられないものである。また、H-5の柱穴については、床面で確認ができず、掘り方掘削時に検出された。

第2節 その他の遺構

(1) 土坑・ピット

土坑は11基 (D-1～11) が検出された。調査区東部での検出が多い。D-1・3・9の平面形は方形基調であり、特にD-3については覆土中にAs-Bとみられる軽石が多く含まれることから、中世以降の遺構と考えられる。この他の土坑は円・楕円形の平面形で掘り込みの浅いものが多いが、D-2・8・11は比較的深く、規模・形状ともに類似している。用途が限定できる遺構や出土遺物はなかった。

ピットは27基 (P-1～27) が検出された。調査区の東西2箇所に集中して検出された。平面形状は円形または楕円形が多く、P-25のみが方形である。直径は27～67cmであり、深さは9～45cmである。柱痕跡や建物跡を構成する規則的な配列はみられなかった。

(2) 井戸跡

井戸は1基 (I-1) が検出されたが、底面までの掘削はできなかった。I-1は調査区西部で検出された素掘りの井戸で、平面形状は円形、断面形状は箱状と考えられる。時期は覆土中にAs-Bと考えられる軽石が多く含まれることから、中世以降と考えられる。

(3) 溝跡

溝跡は2条 (W-1・2) が検出された。調査区西部で検出され、ともに検出長は3m前後で、走行方向は南北方向である。W-1は3箇所が深く掘り込まれ、W-2は北端部が東へ折がる形状である。W-2はH-2・3B・7と走行方向が近く、関連する遺構の可能性がある。

(4) 性格不明遺構

性格不明遺構は5基 (X-1～5) が検出された。X-1・2は表土除去時に検出された盛土状の遺構で、にぶい黄褐色のシルト～砂質シルトが堆積している。平面形状は不明だが、断面観察ではV層直上の堆積層が削平され

すに残存した状態と考えられる。色調や土質から Hr-FA 火碎流の可能性がある。X-3 は底面が平坦な浅い豊穴状構造で、少量の土師・須恵器も出土していることから、住居跡の可能性があるが、平面形状が一部不明瞭であったため性格不明遺構とした。X-4 は H-8 と重複する深さ 20cm 程の掘り込みである。規模と直線的な南辺の形状から、豊穴住居跡の可能性もあるが、部分的な検出であったため性格不明遺構とした。X-5 は小形の浅い掘り込みで、規模・形状から、土坑の可能性もあるが、部分的な検出であったため性格不明遺構とした。

第2表 豊穴住居跡 (H) 観察表

番号	グリッド		平面 形状	面積 方位	規模 (m)		底 面 高 (m)	カマ F (m)		時期	判断基準	() は推定・残存値	
	X	Y			長軸	短軸		位置	傾斜			重複関係・参考	
1	E + F	5 + 6	長方形	N-112°-E	4.32	3.06	1.29	11.04	東壁	0.83	0.62 0.67	9世紀 墨3四半期	出土遺物 H-3A + 3B + 4より新しい。
2	F	6 + 7	方形か	N-105°-E	3.24	(2.04)	0.74	3.60	東壁	1.92	0.40 0.52	9世紀 墨3四半期	出土遺物 H-3B + 4 + 8より新しい。
3A	E + F	4 ~ 6	方形	N-92°-E	(4.78)	4.66	1.39	5.77	東壁	1.11	0.52 0.88	9世紀 墨3四半期	出土遺物 H-3B + 4より新しい。H-1, D-2より古い。
3B	E + F	5 + 6	長方形	N-102°-E	4.66	3.31	1.25	3.66	—	—	9世紀 墨3四半期	出土遺物 H-4より新しい。H-1 + 2 + 3A もり古い。	
4	E + F	5 + 6	方形	N-79°-E	4.90	4.74	1.39	4.06	—	—	7世紀後半	出土遺物 H-1 + 2 + 3A + 3B もり古い。	
5	F	1 + 2	方形か	N-86°-E	(3.67)	(2.56)	0.76	7.08	—	—	7世紀後半	出土遺物 N-2より新しい。D-1 + 3より古い。 北東部に古い遺構の重複する。	
6	E	2 + 3	方形か	N-97°-E	4.45	(1.62)	0.34	3.50	—	—	10世紀 初期	出土遺物 D-5, P-20より新しい。	
7	E + F	7 + 8	長方形	N-97°-E	(2.77)	2.56	0.47	5.74	東壁	0.47	0.38 0.54	10世紀 初期	出土遺物 D-7, P-10より新しい。
8	F	6 + 7	方形か	N-42°-E	3.85	2.49	0.77	5.25	—	—	9世紀 墨3四半期	出土遺物 X-4より新しい。H-2, P-1より古い。	

第3表 土坑 (D) 観察表

番号	グリッド		平面 形状	面積 方位	規模 (m)		底面標高 (m)	グリッド		平面 形状	面積 方位	() は推定・残存値							
	X	Y			長軸	短軸		位置	傾斜			禁口幅							
1	F	2	丸く方形状	逆台形状	1.15	1.01	0.41	123.15	—	—	7	E + F	7	椭円形	弧状	0.95	0.72	0.13	123.41
2	F	4	円形	逆台形状	0.89	(0.43)	0.31	123.18	—	—	8	E + F	3	円形	平円状	0.85	0.78	0.40	123.09
3	E + F	1 + 2	長方形	椭状	2.44	0.87	0.24	123.32	—	—	9	E + F	2	(方形)	椭状	1.06	(0.91)	0.39	123.14
4	F	3	円形	椭状	1.11	1.05	0.18	123.30	—	—	10	E + F	2	長楕円形	椭状	1.02	0.48	0.27	123.21
5	E	3 + 4 (楕円形)	半円状	0.42	(0.20)	0.20	123.32	—	—	11	E	2	円形	椭状	0.71	0.70	0.56	122.96	
6	F	9 + 10	椭円形	半円状	(1.53)	1.12	0.44	123.34	—	—									

第4表 ピット (P) 観察表

番号	グリッド		平面 形状	面積 方位	規模 (m)		底面標高 (m)	グリッド		平面 形状	面積 方位	() は推定・残存値							
	X	Y			長軸	短軸		位置	傾斜			禁口幅							
1	F	7	円形	半円状	0.67	0.61	0.22	123.52	—	—	15	F	2	円形	U字状	0.42	0.35	0.39	123.11
2	F	3	円形	逆台形状	0.41	0.40	0.22	123.19	—	—	16	F	2	(円形)	逆台形状	0.57	(0.31)	0.45	123.03
3	E	8	椭円形	V字状	0.30	0.26	0.22	123.53	—	—	17	F	4	円形	椭状	0.45	0.39	0.36	123.20
4	E	8	椭円形	V字状	0.38	0.26	0.33	123.53	—	—	18	F	4	円形	漏斗状	0.39	0.34	0.27	123.26
5	E	8	椭円形	漏斗状	0.51	0.39	0.44	123.28	—	—	19	F	4	円形	半円状	0.26	0.24	0.25	123.29
6	F	8	椭円形	半円状	0.29	0.21	0.18	123.62	—	—	20	E + F	6	円形	椭状	0.32	0.29	0.25	123.44
7	F	8	円形	半円状	0.33	0.28	0.28	123.55	—	—	21	E + F	3	椭円形	階段状	0.38	0.25	0.24	123.25
8	F	8	円形	漏斗状	0.39	0.36	0.35	123.46	—	—	22	E	3	円形	半円状	0.28	0.24	0.28	123.25
9	F	8	円形	U字状	0.37	0.35	0.36	123.43	—	—	23	E + F	3	円形	半円状	0.39	0.35	0.35	123.20
10	E + F	7	椭円形	弧状	0.62	0.51	0.2	123.37	—	—	24	F	3	円形	弧状	(0.54)	0.53	0.10	123.06
11	F	7	円形	半円状	0.50	0.41	0.27	123.50	—	—	25	E + F	2 + 3	方形	U字状	0.42	0.39	0.42	123.12
12	F	7	円形	半円状	0.42	0.31	0.26	123.54	—	—	26	E	2 + 3	円形	弧状	0.27	(0.20)	0.09	123.42
13	F	7 + 8	椭円形	漏斗状	(0.4)	(0.26)	0.38	123.37	—	—	27	E + F	3	円形	逆台形状	0.27	(0.18)	0.15	123.35
14	F	3	円形	半円状	0.36	0.33	0.26	123.20	—	—									

第5表 井戸跡(I)観察表

番号	グリッド		構造	断面形状	規模(m)			底面標高(m)	時期	重複関係・備考
	X	Y			長軸	短軸	深さ			
I	E	9	素掘り	(楕状)	円形	1.08	1.04	(1.05)	1122.17	中世以降 底部未検出。

第6表 溝跡(W)観察表

番号	グリッド		断面形状	走行方向	規模(m)			底面標高(m)	時期・備考	
	X	Y			続出長	幅	深さ(約)			
1	E・F	10	張状	北-南(N-7°E)		2.88	0.49 ~ 0.87	0.08 ~ 0.41	123.30 ~ 123.64	古代は跡。
2	E・F	8	半円状	北-南(N-12°E)		3.08	0.08 ~ 0.51	0.05 ~ 0.16	123.56 ~ 123.64	古代は跡。

第7表 性格不明遺構(X)観察表

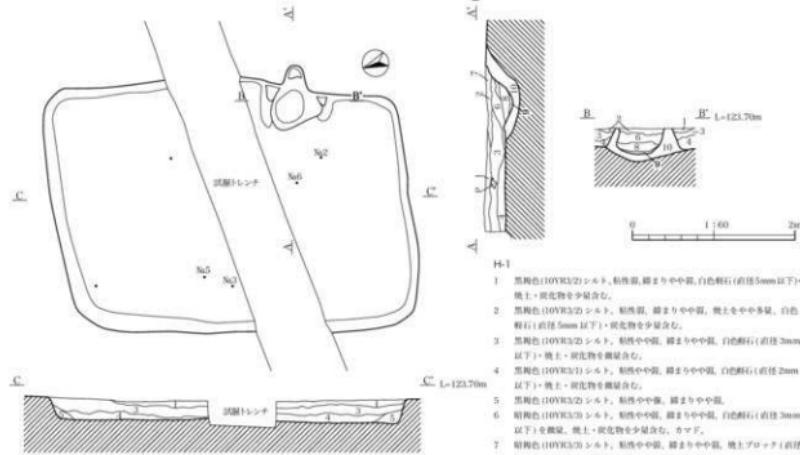
番号	グリッド		断面形状	断面形状	規模(m)			底面標高(m)	時期	重複関係・備考
	X	Y			長軸	短軸	深さ			
1	F	6	—	—	0.89	0.33	0.05	123.80	6世紀後期か	—
2	E・F	1	—	—	(2.07)	(0.09)	0.08	123.59	6世紀初期か	H-5, X-3より古い。
3	E・F	1・2	(方形)	(逆台形状)	3.35	(1.59)	0.40	123.46	9世紀第3四半期	X-2より新しく、D-3・9・10より古い。
4	F	7・8	(方形)	(逆台形状)	(2.90)	(0.21)	1.45	123.34	9世紀以前	H-8より古い。
5	F	7	(楕円形)	(半円状)	(1.24)	(0.18)	0.16	123.59	不明	—

第8表 遺物観察表(1)

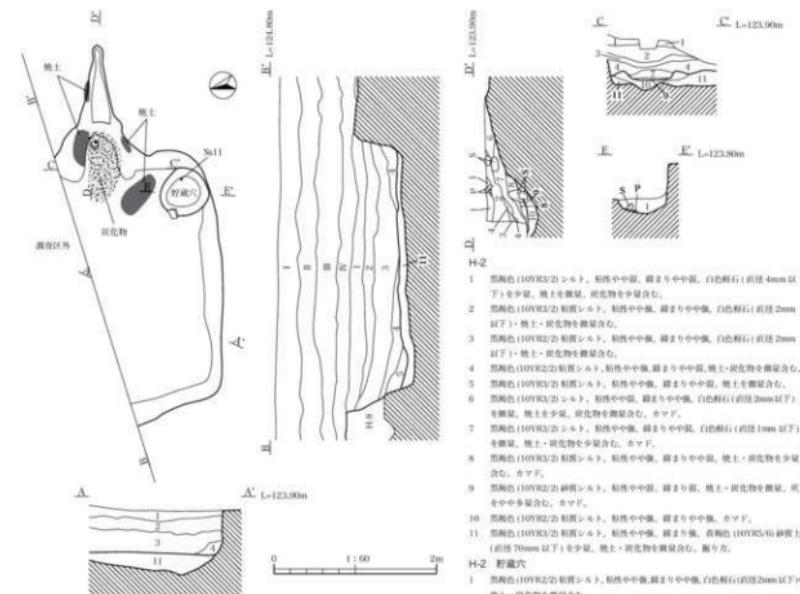
器皿番号	出土遺跡	出土位置	埋植	法延	焼成	残存	色調	含有物	調査・文様	
1	H-1	覆土	須恵器 片	口(31.3) 底(29.0) 内径(26.2) 高(3.4)	還元	口縁部 20% 底部 40%	内面：灰白 外曲：灰白	石・長・白・ 黒	右側輪クロコ形、底部右側底面切り離し後、無調整、 右側輪左側底面にヨコナギ、底部中央にナギ。	
2	H-1	No.6 カマF	土師器 片	口(32.1) 底(38.6) 高(3.0)	良好	口縁部 20% 底部 25%	内面：にい・青 外曲：にい・青	石・長・角・ 青	内面：口縁部にヨコナギ、体部にナギ、指押さえ。底 部にヘラケズリ。	
3	H-1	No.6	土師器 盤	口(19.8) 底(16.7)	良好	口縁部 40%	内面：青 外曲：にい・青	石・長・青・ 黒・青・チ・ 黒	内面：口縁部にヨコナギ、側部にナギナデ、指押さえ。 外曲：口縁部にヨコナギ、体部にナギ、指押さえ。底 部方向にヘラケズリ。側部中央に帶状に復古紋。	
4	H-1	覆土	土師器 白付裏	口(38.2) 底(34.0)	良好	底部 10%	内面：青 外曲：青	石・長・青・ チ・黒	内面：底部左側にナギナデ、右側にヨコナギ。 外曲：ヨコナギ・ナギナデ、指押さえ。	
5	H-1	No.2	土製品 筋輪車	長(6.1) 幅(3.1) 高(3.8) 重(36.5) 底(36.5)	還元	ほぼ 完存	内面：灰白 外曲：灰白	石・長・白・ 黒	右側輪クロコ形、下面右側底面切り離し後、無調整、 上下面の口縁部と側面下部に手持ちヘラケズリ。	
6	H-1	No.5	丸瓦	長(32.9) 幅(29.5) 厚(1.2) 重(328.0)	還元	破片	内面：灰白 外曲：灰白	石・長・青・ チ・白	右端底瓦 右側輪左側底面にヨコナギ。右側輪左側底面にヨコナギナ デ。筋輪車はヘラケズリ。側部はヘラケズリ後ナギナ デ。側輪と凹面側の扶輪寄合み底面取られ。凸面側 に浅く分離痕の跡がある。	
7	H-2	カマF	須恵器 高台付盤	口(38.6) 底(32.9)	還元	底部 15%	内面：灰白 外曲：灰白	石・長・黒	右側輪クロコ形、底部高台貼り付け。	
8	H-2	覆土	須恵器 盤	口(31.8)	還元	破片	内面：灰白 外曲：灰白	石・長・青・ チ・白	右側輪クロコ形、底部高台貼り付け。体部に斜板 ヘラケズリ。	
9	H-2	覆土	土師器 片	口(11.6) 底(7.7) 高(5.0)	やや 良好	口縁部 20% 底部 25%	内面：にい・青 外曲：にい・青	石・長・青・ 角・青	内面：ヨコナギ。 外曲：口縁部にヨコナギ、側部にナギ、指押さえ。底 部にヘラケズリ。	
10	H-2	覆土	土師器 片	口(35.6) 底(24.9)	良好	口縁部 25%	内面：にい・青 外曲：にい・青	石・長・青・ チ・白	内面：ヨコナギ。 外曲：口縁部にヨコナギ、側部に横方向へのヘラケズリ。	
11	H-2	No.1	土師器 盤	口(19.9) 底(37.7)	良好	口縁部 25%	内面：明る青 外曲：青	石・長・青・ 角・青	内面：口縁部にヨコナギ、側部にナギナデ。 外曲：口縁部にヨコナギ、側部に横・斜方向への ヘラケズリ。	
12	H-3	覆土	須恵器 高台付盤	口(9.2) 底(7.2) 高(5.3)	融化	底部 20%	内面：青 外曲：青	石・長・青・ チ	ロクゴ形、底部高台貼り付け。	
13	H-3	No.3	須恵器 片	口(12.8) 底(6.8) 高(4.3) 重(3.5)	還元	口縁部 45% 底部 20%	内面：灰白 外曲：灰白	石・長・青・ 角・青	右側輪クロコ形、底部右側底面切り離し後、無調整、 内面右側にヒア記号「□」。	
14	H-3	No.5	須恵器 片	口(12.7) 底(7.0) 内径(6.9) 高(4.0)	還元	口縁部 70% 底部 20%	内面：灰白 外曲：灰白	石・長・白・ 黒	左側輪クロコ形、底部左側底面切り離し後、無調整、 内面底部にヘラ記号「△」。	

第9表 遺物観察表(2)

査載番号	出土遺構	出土位置	器種	法量	焼成	残存	色調	含有物	測定・文様
15	H-3	No.4	土器器 环	口:13.2 底:5.8 内高:6.1 高:4.0	還元	完存	内面:灰 外面:灰	石・長・チ	右回転クロ成形。底部右回転糸切り廻し後、無調整。
16	H-3	カマド 掘り方	土器器 环	口:13.0 底:29.8 高:2.9	良好	口縁部 5% 底部 20%	内面:燒 外面:豊	石・長・闊 角・裏	内面:ヨコナデ。 外面:口縁部にヨコナデ。側部に横方向のヘラケズリ。
17	H-3	覆土	土器器 環	口:319.8 底:30.4	良好	口縁部 15%	内面:にごい黄 外面:にごい黄	石・長・闊 角・裏	内面:ヨコナデ。 外面:口縁部にヨコナデ。側部に横方向のヘラケズリ。
18	H-3	覆土 カマド	土器器 環	底:38.9 内高:38.5 長:6.9 幅:3.4 厚:3.5 高:3.4	良好	底部 完存	内面:にごい黄 外面:にごい黄	石・長・角 白・裏	内面:ヘラケズリ。 外面:側部に幅・斜方向のヘラケズリ。底部にヘラケズリ。
19	H-3	No.2	鉢状 鉄製品	口:31.2 底:29.5 内高:30.3 高:3.6	—	—	—	—	断面形状は卵形。肩から鋸齒車輪などの鏡片と考えられる。
20	H-3-B	覆土	土器器 环	口:31.2 底:25.7 内高:30.3 高:3.6	還元	口縁部 20% 底部 20%	内面:灰 外面:灰	石・長・片 子	右回転クロ成形。底部右回転糸切り廻し後、無調整。
21	H-3-B	覆土 H-3 棚上	褐色土 高台付脚	口:31.3 底:36.4 高:2.4	焼化	口縁部 20% 底部 85%	内面:黒 外面:浅朱焼	石・長・角 チ・格	クロ成形。底部両面貼り付け。内面:横方向のエギキ。黒色焼跡。
22	H-3-B	No.5	土器器 環	底:313.4 内高:14.4	良好	口縁部 70%	内面:燒 外面:豊	石・長・闊 角・裏	内面:口縁部にヨコナデ。側部にヘラナデ。 外面:口縁部にヨコナデ。側部に横方向のヘラケズリ。中央部から下部に幅・斜方向のヘラケズリ。
23	H-4	覆土	土器器 環	口:312.4 底:19.8 内高:3.0	良好	口縁部 10%	内面:燒 外面:豊	石・長・角 白	内面:ヨコナデ。 外面:口縁部にヨコナデ。体部にヘラケズリ。
24	H-5	覆土	土器器 環	口:39.4 底:4.3	還元	口縁部 15%	内面:灰 外面:灰	白・黒	右回転クロ成形。底部に手持ちヘラケズリ。 外面:自然崩及び錆斑付。
25	H-5	No.10	土器器 環	口:310.0 底:19.5 高:2.6	還元	口縁部 40%	内面:灰 外面:灰	石・長・チ 白	右回転クロ成形。底部に手持ちヘラケズリ。
26	H-5	No.9	土器器 環	高:312.3	半還元	破片	内面:灰 外面:灰白	石・長・角 チ・白	クロ成形。 内面:体部D位に同心円凹で具。 外面:体部D位に平行タタキ。
27	H-5	No.2	土器器 环	口:31.1 底:丸底 高:3.1	良好	口縁部 50%	内面:燒 外面:豊	石・長・角 チ・白	内面:口縁・体部にヨコナデ。底部にナデ・指押さえ。 外面:口縁部にヨコナデ。体・底部にヘラケズリ。
28	H-5	No.5	土器器 環	口:31.2 底:丸底 高:3.0	良好	完存	内面:燒 外面:豊	石・長・角 チ・白	内面:口縁・体部にヨコナデ。底部にナデ・指押さえ。 外面:口縁部にヨコナデ。底部にヘラケズリ。
29	H-5	No.8	土器器 环	口:39.1 底:丸底 高:3.4	良好	口縁部 55%	内面:燒 外面:豊	石・長・角 白	内面:口縁・体部にヨコナデ・ナデ。底部にナデ・調整不規則。 外面:口縁部にヨコナデ。体・底部にヘラケズリ。
30	H-5	P3	土器器 环	口:11.1 底:丸底 高:3.4	良好	口縁部 50%	内面:燒 外面:豊	石・長・角 白	内面:口縁・体部にヨコナデ・ナデ。底部にナデ・調整不規則。 外面:口縁部にヨコナデ。体・底部にヘラケズリ。
31	H-5	No.3	土器器 环	口:14.0 底:丸底 高:3.7	良好	口縁部 55%	内面:燒 外面:豊	石・長・角 白	内面:口縁・体部にヨコナデ・ナデ。底部にヘラケズリ。 外面:口縁部にヨコナデ。体・底部にヘラケズリ。
32	H-5	覆土	土器器 環	口:16.6 底:丸底 高:3.2	良好	口縁部 55%	内面:燒 外面:豊	石・長・角 白	内面:口縁・体部にヨコナデ・ナデ。底部にヘラナデ。 外面:口縁部にヨコナデ。体・底部にヘラケズリ。
33	H-5	No.11 掘り方	土器器 環	口:21.2 底:4.8 高:4.8	中 良好	口縁部 30% 底部 80%	内面:褐色燒 外面:にごい黃燒	石・長・片 子	内面:口縁部にヨコナデ。側・底部にヘラナデ。 外面:口縁部にヨコナデ。側部に横方向のヘラケズリ。底部にヘラケズリ。 内面:焼付。
34	H-6	覆土 灰物質 高台付脚	台:38.0 高:1.8	還元	底部 5%	内面:灰白 外面:灰白	空窓 (灰白色)	クロ成形。底部右回転ヘラケズリ後両面貼り付け。	
35	H-7	No.5	土器器 環	台:6.7 底:33.7	還元	底部 完存	内面:燒 外面:灰黃	石・長・闊 角・裏	右回転クロ成形。底部右回転糸切り廻し後、高台貼り付け。
36	H-7	No.3	土器器 環	口:12.9 底:6.3 内高:5.3 高:4.4	焼化 気孔	口縁部 45% 底部 20%	内面:にごい黄 外面:にごい黄	石・長・角 チ・白	右回転クロ成形。底部右回転糸切り廻し後、無調整。 口縁部内面にうすく複数着。
37	H-7	No.1	鉢	口:18.0 底:37.8	焼化	口縁部 15%	内面:にごい焼 外面:にごい焼	石・長・角 チ・白	クロ成形。鉢底貼り付け。
38	H-7	カマド	土器器 環	口:310.0 底:39.1	良好	口縁部 15%	内面:明赤燒 外面:にごい黄	石・長・闊 角・裏	内面:口縁部にヨコナデ。側部に横方向のヘラケズリ。 外面:口縁部にヨコナデ。側部に横方向のヘラケズリ。
39	H-8	覆土	土器器 高台付脚	台:9.8 底:38.6	良好	口縁部 45% 底部 20%	内面:明赤燒 外面:豊	石・長・角 白	内面:ヘラケズリ・ナデ。側部にヘラケズリ後ヘラナデ・ナデ。台部にヨコナデ・直角き。
40	D-4	No.1	土器器 高台付脚	口:14.8 底:7.6 高:3.5	半還元	底部 45%	内面:灰白 外面:灰白	石・長・チ 白	右回転クロ成形。底部右回転糸切り廻し後、高台貼り付け。
41	P-7	覆土	土器器 高台付脚	口:14.0 底:7.7 内高:7.3 高:5.2	半還元	口縁部 10% 底部 40%	内面:灰白 外面:燒	石・長・白 角・裏	右回転クロ成形。底部右回転糸切り廻し後、高台貼り付け。
42	X-3	覆土	土器器 環	口:14.2 底:6.9 高:3.1	焼化 気孔	口縁部 20% 底部 80%	内面:灰 外面:灰	石・長・角 白・黒	右回転クロ成形。底部右回転糸切り廻し後、無調整。
43	X-3	IV層	土器器 環	口:14.2 底:6.9 高:3.1	還元	口縁部 35% 底部 完存	内面:灰 外面:灰	右回転クロ成形。底部右回転糸切り廻し後、無調整。	

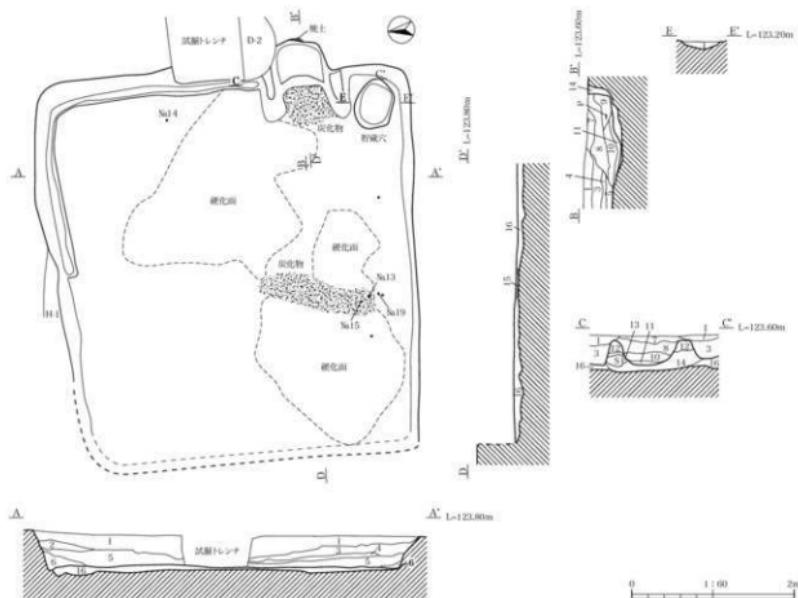


- 1 黒褐色(OYR3/2)シルト、粘性質、緑よりや中堅、白色鉄石(直径5mm以下)・
地土・炭化物を少量含む。
- 2 黒褐色(OYR3/2)シルト、粘性質、緑よりや中堅、地土をやや多量、白色
鉄石(直径5mm以下)・炭化物を少量含む。
- 3 黒褐色(OYR3/2)シルト、粘性やや強、緑よりや中堅、白色鉄石(直径20mm
以下)・地土・炭化物を微量含む。
- 4 黒褐色(OYR3/2)シルト、粘性やや強、緑よりや中堅、白色鉄石(直径2mm
以下)・地土・炭化物を微量含む。
- 5 黒褐色(OYR3/2)シルト、粘性やや強、緑よりや中堅。
- 6 前海色(OYR3/2)シルト、粘性やや強、緑よりや中堅、白色鉄石(直径20mm
以下)・地土・炭化物を少量含む。カマツ。
- 7 前海色(OYR3/2)シルト、粘性やや強、緑よりや中堅、地土ブロック(直径
50mm以下)・セイやや多量、地土・炭化物を微量含む。カマツ。
- 8 黒褐色(OYR3/2)シルト、粘性やや強、緑よりや中堅、白色鉄石(直径10mm
以下)・地土・炭化物を微量含む。カマツ。
- 9 黒褐色(OYR3/2)シルト、粘性やや強、緑よりや中堅、地土・炭化物を微量、
灰を少量含む。カマツ。
- 10 黒褐色(OYR3/2)シルト、粘性やや強、緑よりや中堅、白色鉄石(直径20mm
以下)・地土・炭化物を微量含む。カマツ。



第4図 H-1号住居跡、H-2号住居跡

H-3A



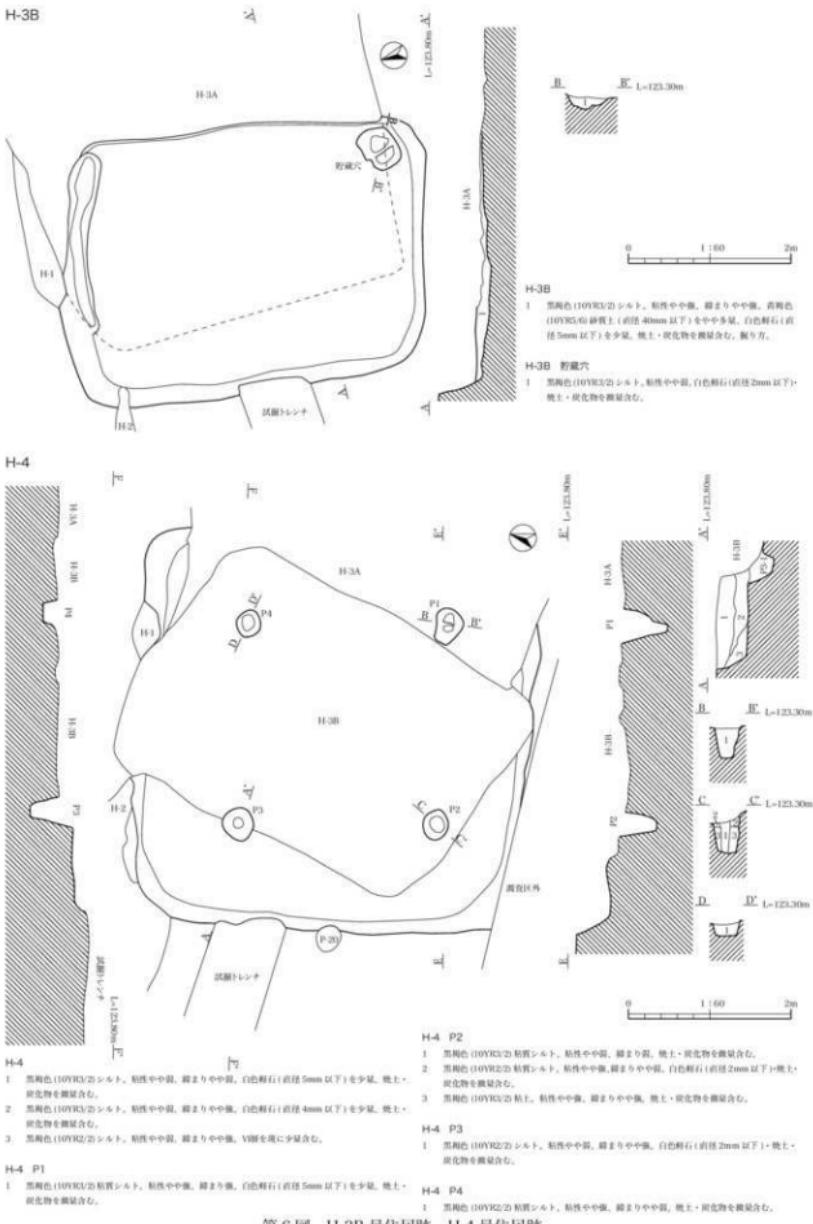
H-3A

- 1 黒褐色(DYR3/2)シルト。粘性や中層、締まりや中固。白色軽石(直径5mm以下)・礁石を少量、炭化物を微量含む。
- 2 黒褐色(DYR2/2)シルト。粘性や中層、締まりや中固。白色軽石(直径2mm以下)・礁土・炭化物を微量含む。
- 3 黒褐色(DYR3/2)シルト。粘性や中層、締まりや中固。白色軽石(直径2mm以下)を少量、礁土・炭化物を微量含む。
- 4 黒褐色(DYR2/2)粘質シルト。粘性や中層、締まりや中固。白色軽石(直径1mm以下)・礁土・炭化物を微量含む。灰を少量含む。
- 5 黒褐色(DYR3/2)粘質シルト。粘性や中層、締まりや中固。白色軽石(直径2mm以下)・礁土・炭化物を微量含む。
- 6 灰黄褐色(DYR4/2)粘質シルト。粘性や中層、締まりや中固。白色軽石(直径2mm以下)・礁土・炭化物を微量含む。
- 7 黒褐色(DYR3/2)シルト。粘性や中層、締まりや中固。白色軽石(直径3mm以下)・礁土・炭化物を微量含む。カマツ。
- 8 黒褐色(DYR2/2)シルト。粘性や中層、締まりや中固。白色軽石(直径2mm以下)を微量、礁土を少量、炭化物を微量含む。カマツ。
- 9 黒褐色(DYR2/2)シルト。粘性や中層、締まりや中固。礁土をやや多く、炭化物を微量含む。カマツ。
- 10 にじ黒褐色(DYR4/2)粘質シルト。粘性や中層、締まりや中固。礁土をやや多く、炭化物を微量含む。カマツ。
- 11 黒色(DYR2/1)粘質シルト。粘性や中層、締まりや中固。灰土・礁土・炭化物を少量含む。カマツ。
- 12 黒褐色(DYR3/2)粘質シルト。粘性や中層、締まりや中固。白色軽石(直径2mm以下)を少量、礁土・炭化物を微量含む。カマツ。
- 13 にじ黒褐色(DYR4/2)粘質シルト。粘性や中層、締まりや中固。白色軽石(直径2mm以下)を微量、礁土を少量、炭化物を微量含む。カマツ。
- 14 黒褐色(DYR3/2)粘質シルト。粘性や中層、締まりや中固。白色軽石(直径2mm以下)を微量、礁土を少量、炭化物を微量含む。カマツ。
- 15 黒褐色(DYR2/2)粘質シルト。粘性や中層、締まりや中固。炭化物を多量含む。
- 16 黒褐色(DYR3/2)粘質シルト。粘性や中層、締まりや中固。白色軽石(直径70mm以下)を多量、白色軽石(直径5mm以下)を少量、礁土・炭化物を微量含む。締り力有。

H-3A 貯藏穴

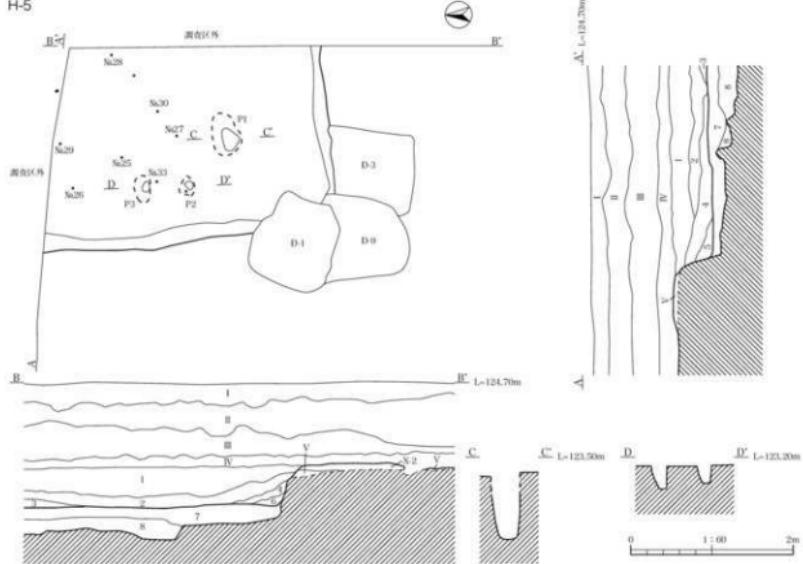
- 1 黒褐色(DYR2/2)粘質シルト。粘性や中層、締まりや中固。白色軽石(直径2mm以下)・礁土・炭化物を微量含む。

第5図 H-3A号住居跡

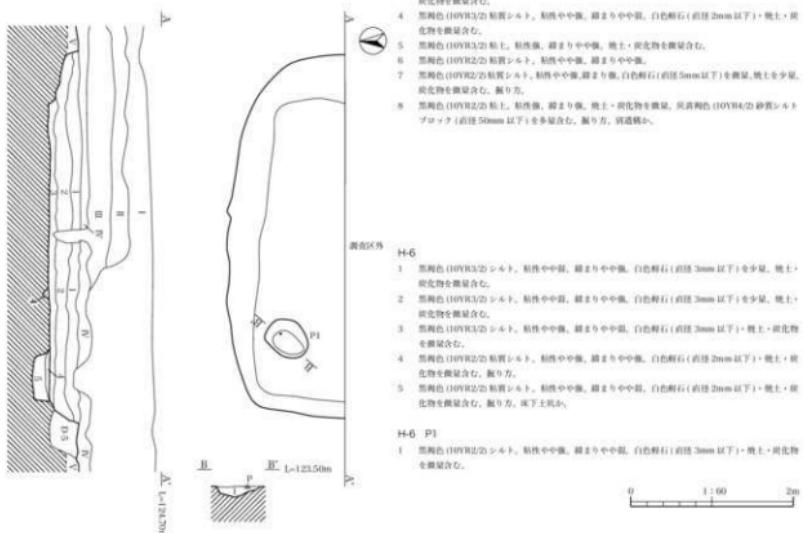


第6図 H-3B号住居跡、H-4号住居跡

H-5

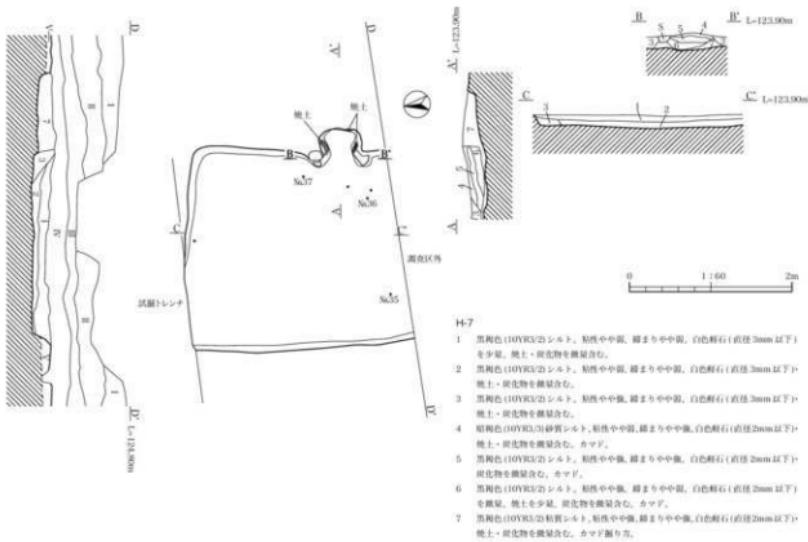


H-6

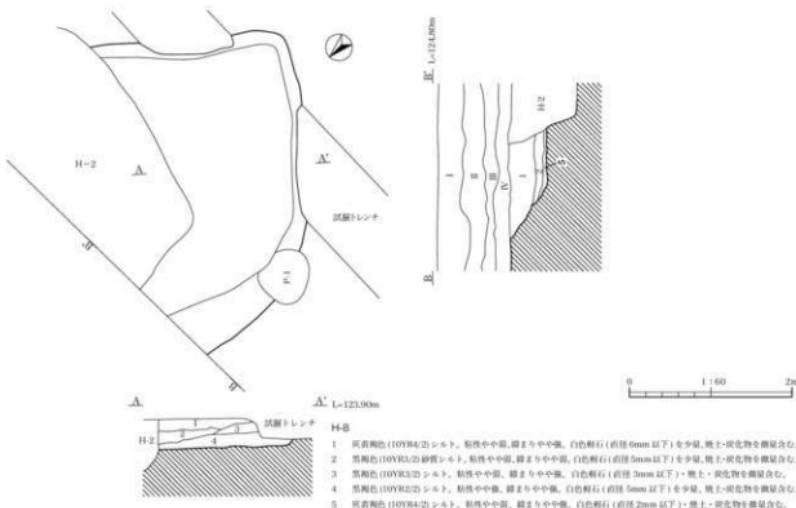


第7図 H-5号住居跡、H-6号住居跡

H-7

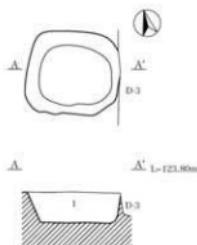


H-8

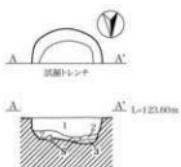


第8図 H-7号住居跡、H-8号住居跡

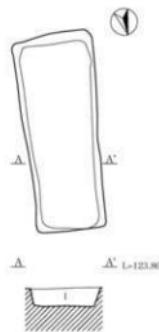
D-1



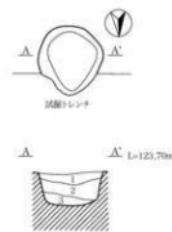
D-2



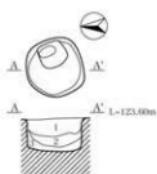
D-3



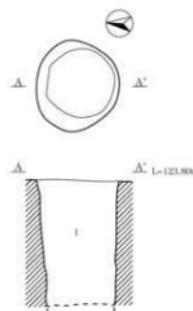
D-8



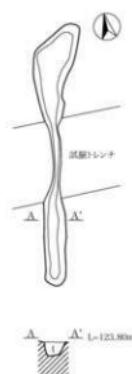
D-11



I-1

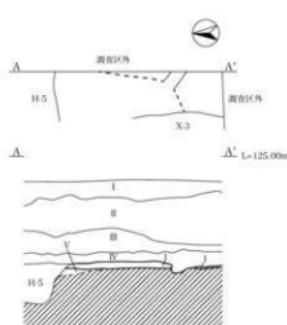


第9図 D-1～3・8・11号土坑、I-1号井戸跡



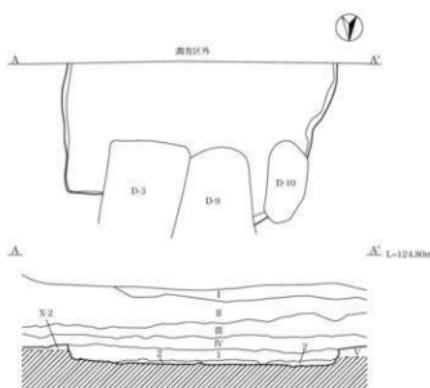
W-2

- 1 黒褐色(10YR4/3)砂質シルト。粘性や中層、緑まりや中層、白色軽石(直径3mm以下)を微量含む。
- 2 黒褐色(10YR4/2)粘質シルト。粘性や中層、緑まりや中層、白色軽石(直径3mm以下)を少々、鐵土・炭化物を微量含む。



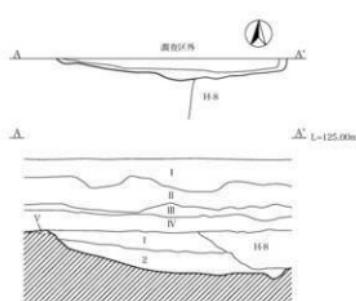
X-2

- 1 に黒褐色(10YR4/3)砂質シルト。粘性や中層、緑まりや中層、白色軽石(直径5mm以下)を微量含む。下部に黒褐色(10YR5/2)のシルト。上部に黒褐色のシルトと砂質上に細粒に堆積、10~20cmの隙間に亜鉛が入り、黒褐色の粘質シルトが入り込む。



X-3

- 1 黒褐色(10YR4/2)シルト。粘性や中層、緑まりや中層。に黒褐色(10YR4/3)砂質シルトブロック(直径50mm以下)を少々、白色軽石・鐵土・炭化物を微量含む。
- 2 黒褐色(10YR4/2)粘質シルト。粘性や中層、緑まりや中層。鐵土・炭化物を微量含む。



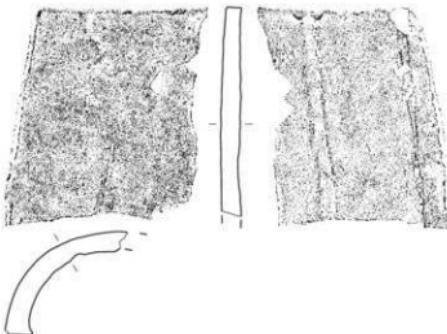
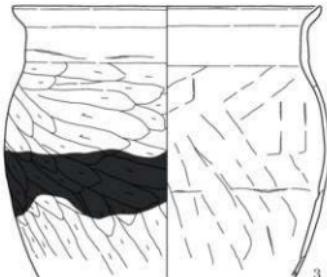
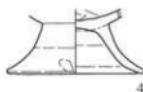
X-4

- 1 黒褐色(10YR3/2)シルト。粘性や中層、緑まりや中層、白色軽石(直径3mm以下)を微量含む。
- 2 黒褐色(10YR2/2)粘質シルト。粘性や中層、緑まりや中層。白色軽石(直径2mm以下)を微量含む。

0 1:60 2m

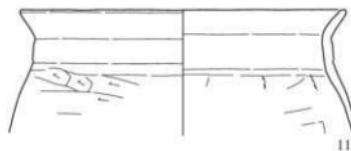
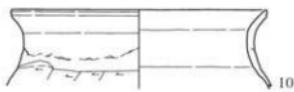
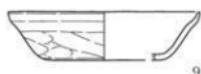
第10図 W-2号溝跡、X-2~4号性格不明遺構

H-1

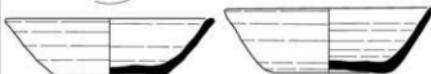


6

H-2



H-3



13

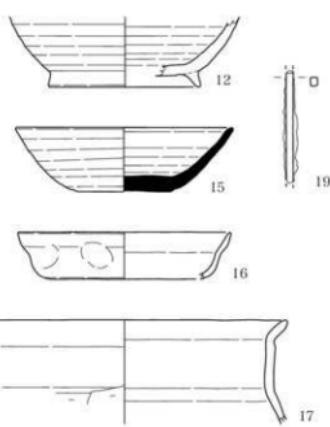
14



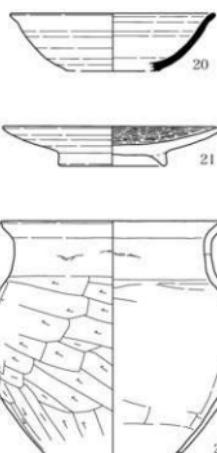
0 1:3 10cm

第11図 H-1、H-2号住居跡出土遺物、H-3号住居跡出土遺物(1)

H-3



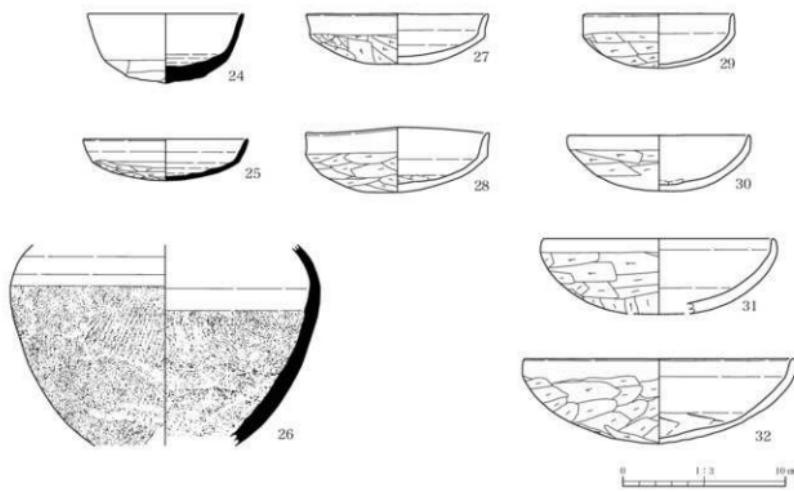
H-3B



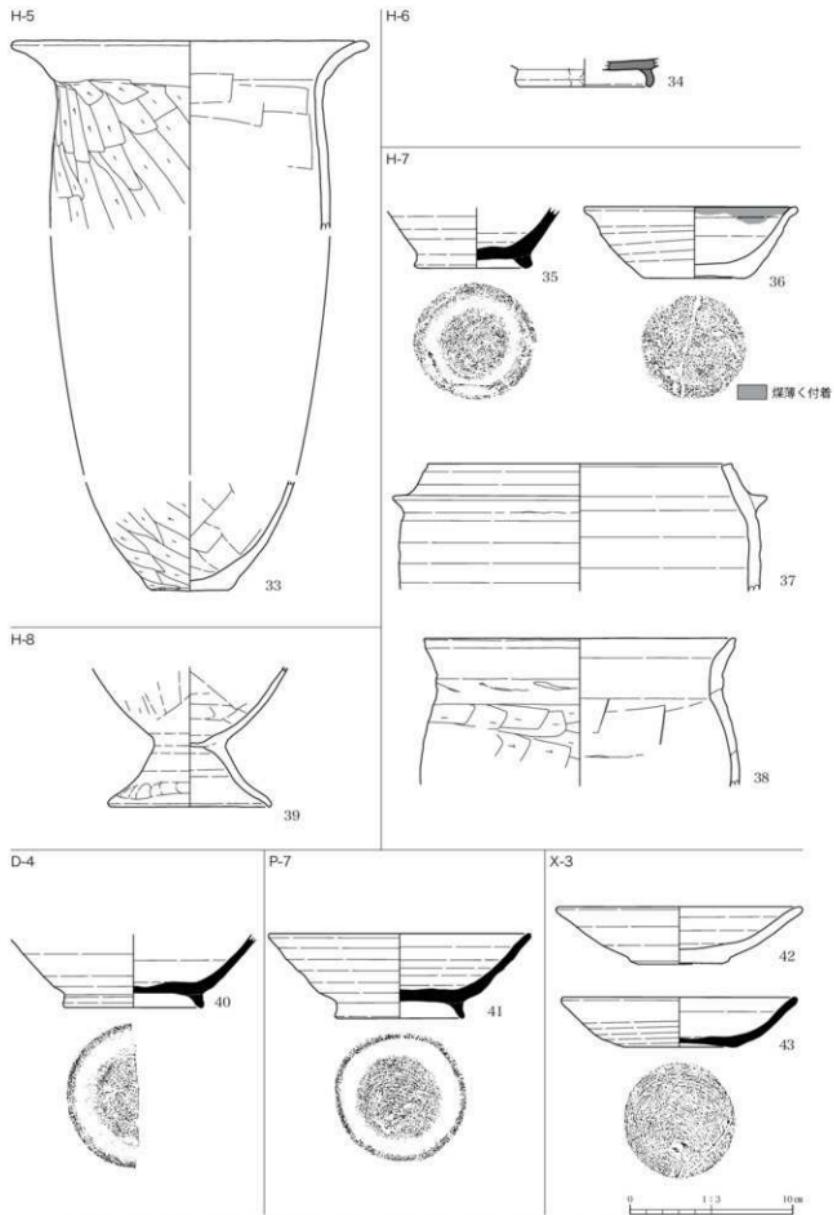
H-4



H-5



第12図 H-3号住居跡出土遺物(2)、H-3B、H-4号住居跡出土遺物、H-5号住居跡出土遺物(1)



第13図 H-5号住居跡出土遺物(2)、H-6~H-8号住居跡出土遺物、D-4号土坑、P-7号ピット、X-3号性格不明遺構出土遺物

第VI章　まとめ

今回の調査では竪穴住居跡9軒、土坑11基、ピット27基、井戸跡1基、溝跡2条、性格不明遺構5基を検出した。遺構の時期は平安時代（9～10世紀）のものが多数を占めるものと考えられるが、D-3、I-1については覆土の状況から中世以降と考えられる。また、H-4・5については出土遺物などから古墳時代（7世紀後半）の遺構と考えられ、これは山王庵寺と總社古墳群の大型方墳が構築された時期と重なっている。

今回の調査区は狭小であるため、検出された遺構は、各時期において同一の集落に属していたと考えられる。竪穴住居跡のうち、平安時代のものと考えられる7軒（H-1・2・3A・3B・6・7・8）の中には、形状・規模・方位などで似通ったものがみられる。方位についてはH-8以外の6軒では比較的近いが、H-2と3B、H-6と7では特に近い。規模については、H-2と3Bの東西壁、H-3AとH-3Bの南北壁が近似値であった。また同様に古墳時代の遺構と考えられるH-4・5についても、柱穴の位置・形状などに類似点がみられる。

本遺跡の東方125m付近で調査が行われた昌楽寺廻向II遺跡では、竪穴住居跡4軒が検出されており、2軒は奈良時代、1軒は平安時代であった。同遺跡は本遺跡と同様に八幡川右岸の自然堤防上に位置しているため、平安時代には何らかの関わりがあったものと考えられる。

今回の調査で検出された遺構は、周辺地域の傾向と同じく、奈良・平安時代に増加した集落の一部として構築されたものと考えられる。

出土遺物については竪穴住居からの出土が多く、須恵器・土師器の壊・甕などの出土が目立つ。特筆する遺物としてはH-1から出土した還元焰焼成の土製筋鍤車、H-1・6、I-1、D-6などから出土した、山王庵寺のものと考えられる瓦の破片があげられる。また、H-3・8、P-1から打製石斧が出土したほか、全ての竪穴住居跡と多くの遺構から讃文時代中期の土器片が出土しているが、いずれも遺構に伴うものではないため、近接地に当時の集落跡が存在する可能性がある。

引用・参考文献

- 前橋市教育委員会、前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1988『昌楽寺廻向II遺跡』
前橋市教育委員会 2012『朝倉伊勢西No.2遺跡』
前橋市教育委員会 2012『山王庵寺』
前橋市教育委員会 2013『元總社舊海道跡群(47)』
前橋市教育委員会 2016『元總社舊海道跡群(100)・(101)』
前橋市教育委員会 2017『朝倉伊勢西No.3遺跡』
前橋市教育委員会 2019『元總社舊海道跡群(116)・(123)』
總社總社音沢遺跡調査会 1997『總社總社音沢遺跡』
群馬県 1956『土地分類基本調査 前橋』

写 真 図 版



H-1号住居跡 西から



H-1号住居跡カマド 西から



H-2号住居跡 西から



H-2号住居跡カマド 西から



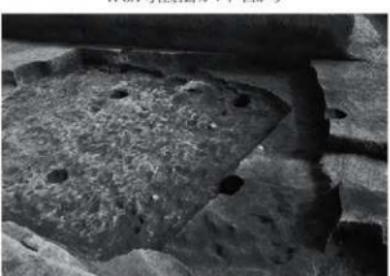
H-3A号住居跡 西から



H-3A号住居跡カマド 西から



H-3A・B号住居跡掘り方 西から



H-4号住居跡 北から

PL.2



H-5号住居跡 南から



H-6号住居跡 北から



H-7号住居跡 西から



H-7号住居跡カマド 西から



H-8号住居跡 南から



D-1号土坑 南から



D-3号土坑 南から



D-8号土坑 北から



D-11号土坑 南から



I-1号井戸跡 南から



W-1号溝跡 北から



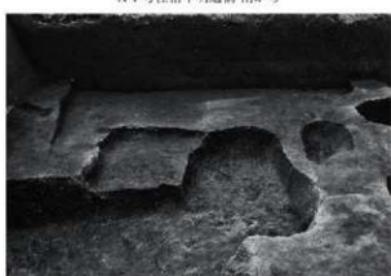
W-2号溝跡 南から



X-1号性格不明遺構 南から



X-2号性格不明遺構断面 西から



X-3号性格不明遺構 北から



X-4号性格不明遺構 南西から

PL.4

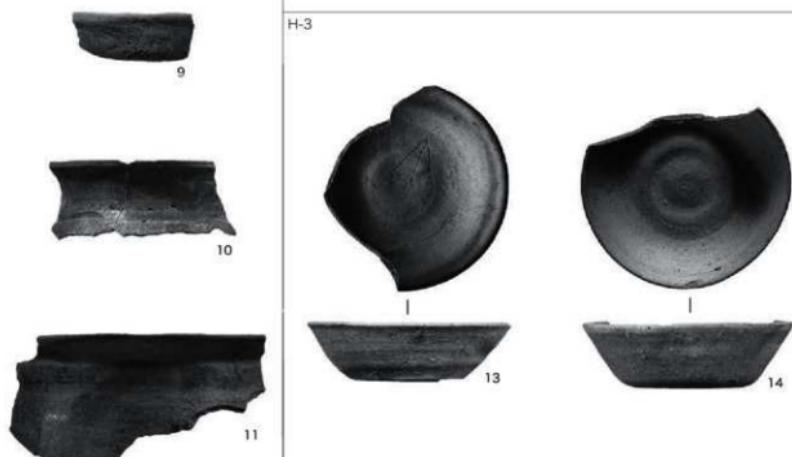
H-1



H-2



H-3



H-1、H-2号住居跡出土遺物、H-3号住居跡出土遺物（1）

H-3



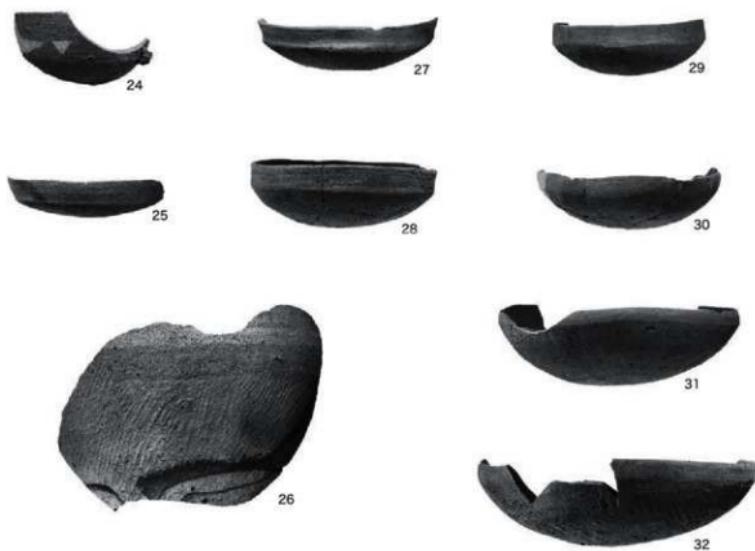
H-3B



H-4



H-5



H-3号住居跡出土遺物（2）、H-3B、H-4号住居跡出土遺物、H-5号住居跡出土遺物（1）

PL.6

H-5



I



33

H-8



39

H-6



34

H-7



35



36



37



38

D-4



40

P-7



41

X-3



42



43

H-5号住居跡出土遺物(2)、H-6~H-8号住居跡出土遺物、D-4号土坑、P-7号ピット、
X-3号性格不明遺構出土遺物

報告書抄録

フリガナ	ソウジャショウラクジマリクボドウイセキナンバー2
書名	總社昌楽寺廻廊道遺跡 No.2
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	一
シリーズ名	—
シリーズ番号	—
編著者名	並木史一 小林一弘
編集機関	前橋市教育委員会
所在地	〒371-0853 群馬県前橋市總社町三丁目11番地4 TEL 027-280-6511
発行年月日	2020年7月31日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
ソウジャショウラクジ 總社昌楽寺 マリクボドウイセキナンバー2 廻廊道遺跡No.2	群馬県前橋市 ソウジャショウラクジ 總社町總社 2874-パン1 2874番1ほか	10201	IA 251	36° 24' 02"	139° 02' 09"	2020.4.3 ~ 2020.5.1	193m ²	宅地 造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
總社昌楽寺 廻廊道遺跡 No.2	集落	古墳時代	堅穴住居跡	2軒	灰釉陶器
		平安時代	堅穴住居跡 土坑	7軒 10基	須恵器 土師器
			ビット	27基	羽釜
			溝跡	2条	土製防錐車
			性格不明遺構	5基	瓦
		中世以降	井戸跡 土坑	1基 1基	绳文土器 打製石斧
要約		前橋市總社町に位置し、古墳時代・平安時代の集落の一部と考えられる堅穴住居跡などの遺構を確認した。古墳時代の堅穴住居跡は2軒で7世紀後半頃、平安時代のものは7軒で9世紀第3四半期から10世紀初頭と考えられる。平安時代の遺構覆土中より山王庵寺のものと考えられる瓦片が出土した。			

総社昌楽寺廻廊道遺跡 No.2

宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

印刷 令和2年7月27日

発行 令和2年7月31日

発行 前橋市教育委員会事務局文化財保護課

〒371-0853 群馬県前橋市總社町三丁目11番地4
TEL 027-280-6511

編集 株式会社シン技術コンサル

〒370-1135 群馬県佐波郡玉村町板井311-1
TEL 0270-65-2777

印刷 細谷印刷有限会社

〒372-0031 群馬県伊勢崎市今泉町2-939-5
TEL 0270-25-0193

